



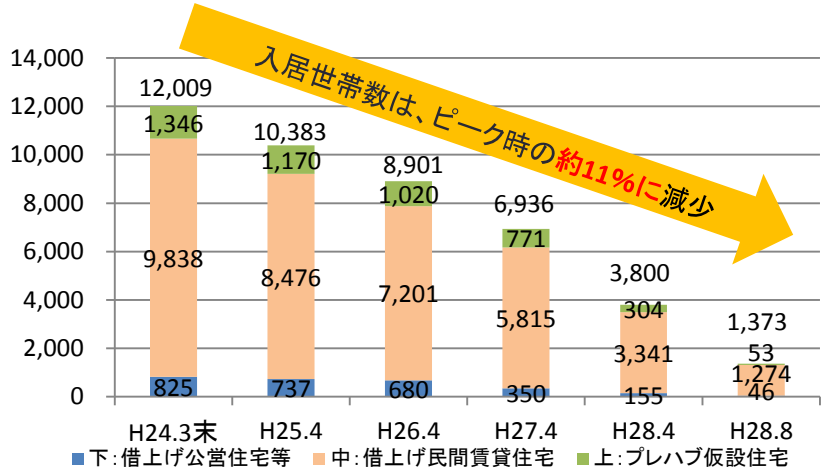
仮設住宅入居世帯の生活再建については、戸別訪問等により世帯ごとの状況や課題を把握し、平成26年3月に策定した生活再建推進プログラム（平成27年3月～生活再建加速プログラム）に沿って支援してまいりました。本市で被災された方の仮設住宅供与は原則5年であり、平成29年3月末までには供与が終了します。現在はこうした供与終了を迎える世帯を中心に、住まいの再建を確実に果たしていただけますよう、個別支援を強化しています。

入居世帯の推移

仙台市内の応急仮設住宅には、平成24年3月末のピーク時において約1万2千世帯が入居されていましたが、住まいと暮らしの再建が進んできたことにより、現在はピーク時の約11%にまで減少しています。

なお、ピーク時に仮設住宅の約82%を占めていた借上げ民間賃貸住宅(*)は、平成28年8月現在では約93%を占めるまでに至っています。

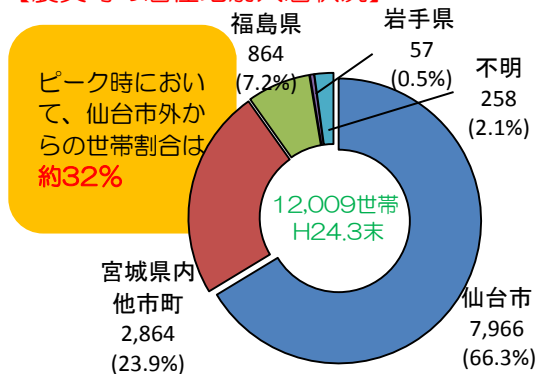
※ 既存の住宅ストックを大量活用した初めての事例



震災時の居住地と住まいの再建

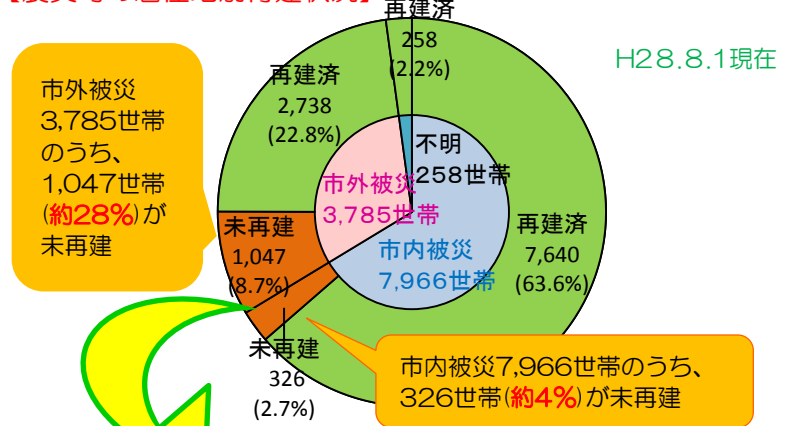
東北に広く被害をもたらした今回の震災では避難も広域的に行われ、現在、市内の仮設住宅入居世帯の約76%は市外で被災された世帯です。市外で被災された世帯は、市内で被災された世帯に比べ住まいの再建が遅れる傾向にありますが、引き続き被災元自治体と連携しながらきめ細かな支援を行ってまいります。

【震災時の居住地別入居状況】



ピーク時において、仙台市外からの世帯割合は約32%

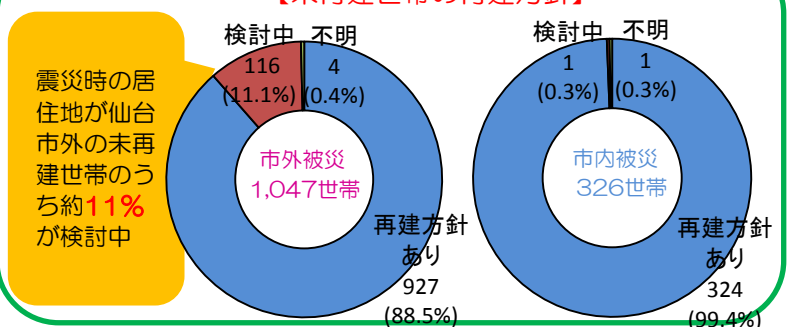
【震災時の居住地別再建状況】



市外被災3,785世帯のうち、1,047世帯(約28%)が未再建

市内被災7,966世帯のうち、326世帯(約4%)が未再建

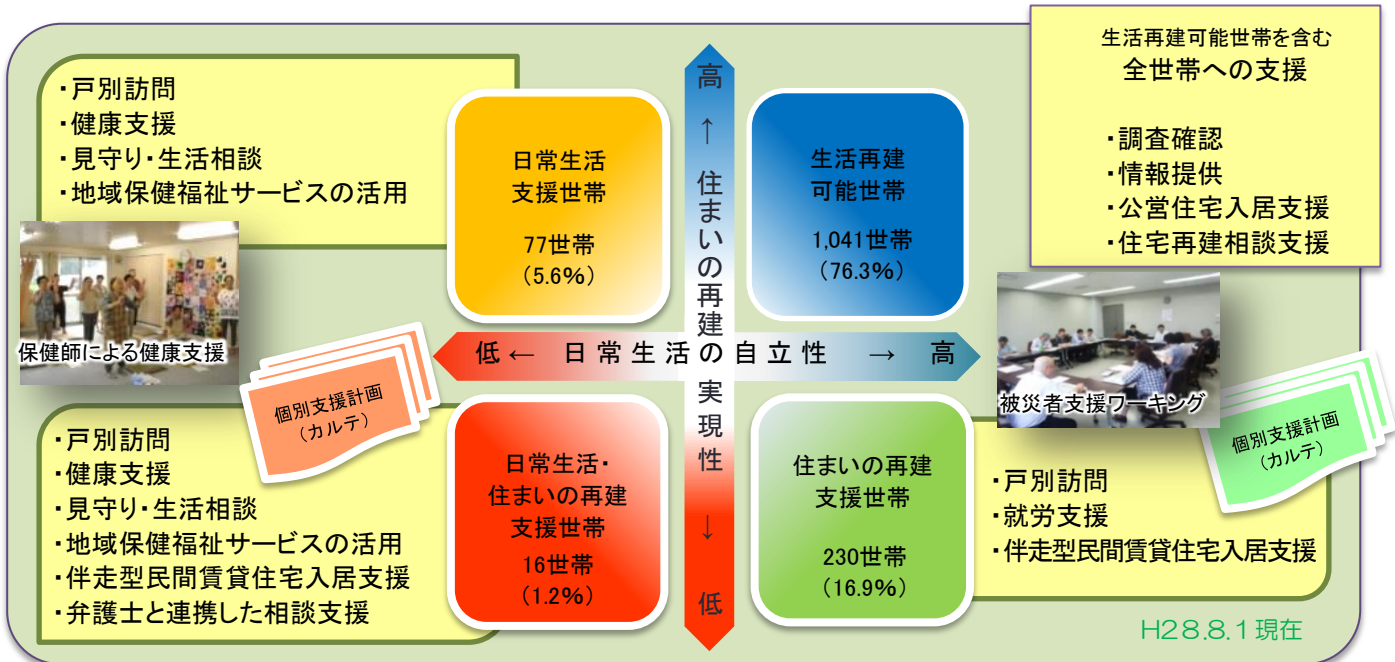
【未再建世帯の再建方針】



震災時の居住地が仙台市外の未再建世帯のうち約11%が検討中

入居世帯への支援

新たな生活の場へ供与期間内に確実に移行できるよう、課題を抱える世帯に対する移行支援策の充実・強化に加え、未だ接触できない世帯への対応や、本市で被災し市外の仮設住宅に入居されている世帯への支援にも取り組んでいます。



接触できない
市内の仮設住宅
入居世帯
9世帯

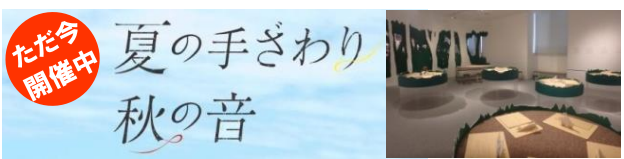
- ・戸別訪問調査
- ・情報提供や相談支援
- ・居住実態のない世帯への退去勧奨等

市内で被災した
市外の仮設住宅
入居世帯
136世帯

- ・情報提供や相談支援
(県内) 避難先市町村との連携
(県外) 交流会等での面談等

● せんだい3.11メモリアル交流館でさまざまな催しが行われています ●

東日本大震災を知り学び、経験と教訓を未来へつないでいく拠点として、地下鉄東西線荒井駅舎内に開設した「せんだい3.11メモリアル交流館」。2月の全館オープンから半年、メモリアル交流館では常設の展示に加え、さまざまな企画やイベントが開催され、多くの方が訪れています。



仙台東部エリアの住民から語られた言葉をもとに、地域の思い出や受け継がれてきた生活文化を紹介し、これまで長い間営まれてきた暮らしの姿を伝える企画展を開催しています。

会期 10月30日(日)まで
開館時間 10時から17時 ※入館無料
休館日 月曜、祝日の翌日(土日祝を除く)

この記事に関するお問合せ先

- メモリアル交流館・企画展関係:
まちづくり政策局防災環境都市推進室 TEL214-1117
- 駅なかメモリアルコンサート関係:
文化観光局文化振興課 TEL214-6139

駅なかメモリアルコンサート

震災後、国内外の音楽家たちが避難所や仮設住宅などを訪れて行った「復興コンサート」は、被災された方々の心を癒し、勇気づけました。このコンサートは、「音楽の力」を後世に伝えていきたいとの思いを込め、本年5月より毎月11日に、荒井駅(メモリアル交流館)または国際センター駅(青葉の風テラス)で開催しています。



← 8月はメモリアル交流館で開催。大勢の観客が耳を傾ける中、美しい旋律が館内に響きわたりました。

↓ 出演の「ジャズミン・トリオ」の皆さん



9月の会場もメモリアル交流館です。コンサートは来年2月まで開催予定です。